

住民の力で命を守る!

平成29年7月9日に、NHKスペシャル「九州北部 記録的豪雨はなぜ」で放送された、2件の避難行動の成功事例です。

1件目は大規模な被害が発生した杷木地区で「自主防災マップ」が功を奏した事例です。杷木地区は市と協働して大きな川だけでなく地域内の小さな川と避難経路を記載した「自主防災マップ」を作成したことで、地域のみなの防災に対する認識が変わり、「平成29年7月 九州北部豪雨災害」では、避難の際に「自主防災マップ」を参考にし、地域のみなが一緒に避難したことにより人的被害が発生しなかったものである。

2件目は大分県中津市の本耶馬溪地区で「住民が異変に気づき早期避難につなげた事例です。」本耶馬溪地区の地区長さんは、平成24年の豪雨災害後、川の巡回を続けていた。7月5日に川を巡回したとき、川の色が茶色で濁っていたことから、異変を察知し、地区全員に避難を呼びかけ、地区全員の避難を1時間半で完了させた。平成24年の豪雨災害の教訓がプラスになった事例である。

番組に出演していた「東京大学大学院情報学環の片田敏孝教授」は、「雨が降りやまない状況の中で、避難のタイミングを取るのが非常にむずしかったと思う。今回のうまくいった2つのケースというのは、地域のことをみんなで観察し、みんなで防災マップをまとめ、そして、みんなで約束事を決めて、声をかけ合って、みんなで逃げるという、いわば、前回の災害の経験を地域のみんなで助かるための仕組みに役立てるということと、それが機能してみんなで声をかけ合って、みんなで逃げるということ、決して個人で逃げるということではなくてみんなで逃げるという形まで、前回の教訓を持ち込んでいることに大きな特長があると思う。」と話されていた。この2件の避難行動には学ぶべきことが多くある。

**みなさん、住民を守るのは地域と住民の力です。
地域みんなで、災害の教訓を生かして、
地域での逃げる仕組みを
作っていくことが大事ですよ。**



